

平成25年度 学習指導改善調査 協力校としての取組

新潟市立結小学校

1 校内研究主題

思考力を育成する授業の創造 ～言語活動の充実を通して～

当校の児童は基礎的・基本的な知識・技能についてはおおよそ定着できているが、自分の考えを説明したり、条件に従って文章を書く等の表現することを苦手としている傾向が見られる。そこで、思考力・判断力・表現力を育てるために「言語活動の充実」を図る必要があると考える。

「言語活動の充実」をめざすために、身に付けさせたい力を明らかにし、その力を身に付けさせるために適切な言語活動（「観点を明確にして表現する」「自分の経験と結びつけて考えをまとめる」「規則性やきまりを用いて表現する」等）を選択し、実現させるための教師の手立てを探る。

2 研究方法

① 「ストラテジープラン」の作成

「言語活動の充実」を通して児童の思考力の育成を目指す授業を実践していくために、教師全員が児童の思考力育成を図る1年間の戦略プラン「ストラテジープラン」を作成する。「ストラテジープラン」において、児童の実態をふまえて伸ばしていきたい力を明らかにし、その力を身に付けさせるためには、どんな言語活動をさせるか、期待される言語活動の姿は何か、その姿になるためにはどんな手だてを講じるかといった具体的な取組を設定する。また、「ストラテジープラン」に評価基準を設け、各学期に自分の実践を振り返る過程を位置付ける。

② 研究授業の実施

「ストラテジープラン」では、「言語活動の充実」として児童の思考力の育成を目指すための重点単元を2つ設定する。そして、それをもとに年間2回の公開授業を実施し、3つの視点（既習の知識や経験などを活用して自分の考えを表現する言語活動・お互いを高め合う言語活動・学級づくり）から検討を行う。

「言語活動の充実」を図る授業

身に付けさせたい力を明らかにし、身に付けさせたい力へとせまるためにふさわしい言語活動を選択する。



目標達成の手だてとなる言語活動

① 既習の知識や経験などを活用して自分の考えを表現する言語活動

子どもたちの主体的な思考や判断を促す発問や指示等の手だて

- 例
- ・児童が理解するに当たって、視点を持たせるようにする。
 - ・設定した視点に応じて対象から情報を適切に取り出すようにする。
 - ・自分や伝える相手の目的や意図をとらえるようにする。
 - ・目的や意図に応じて事実等を整理できるようにする。
 - ・構成や表現を工夫しながら伝えられるようにする。
 - ・事実等を知識や経験と結びつけて解釈し、自分の考えをもたせるようにする。



② お互いの考えを高め合う言語活動

子どもたちの主体的な思考や判断を促す発問や指示等の手だて

- 例
- ・自分の考えについて、探求的態度をもって意見と根拠、原因と結果などの関係を意識し、説明する際には、それを明確に示せるようにする。
 - ・自分の考えと他者の考えのちがいをとらえ、それらの妥当性や信頼性を吟味したり、異なる視点から検討したりして、振り返るようにする。
 - ・考えを伝え合う中で、いろいろな考えや意見があることに気付くようにする。
 - ・それらの根拠や前提条件の違い、特徴に気付くことができるようにする。
 - ・それぞれの考え方の差異点や同一点を整理して、さらに考えを深めることができるようにする。



目標達成

身に付けさせたい力が付けられたか、言語活動の有効性を確認するための振り返りやまとめをする。

指導の実際

第4学年 国語科 人物の様子や気持ちを考えながら読もう「走れ」

〈ねらい〉

（お母ちゃん，ショックだったろうな。でも，けんじもさみしくて……。わたしだってほんとうは……。）に省略されている「のぶよの気持ち」を考えることを通して，のぶよのけんじへの思い，お母ちゃんへの思い，自分自身への思いを読むことができる。

単元を貫く言語活動

単元を貫く言語活動として，「登場人物を紹介するリーフレットを書こう」という活動を設定する。登場人物を紹介する観点として，①登場人物の人物像②登場人物の気持ちの変化③登場人物に対する自分の考えを取り上げる。リーフレットにまとめる言語活動を通して，教材文の叙述にある登場人物の行動や会話から登場人物の人物像や気持ちを読む力や自分の考えや思いをもつ読み方を身に付けさせたいと考える。

既習の知識や経験を活用して自分の考えを表現する言語活動

○言語活動

（お母ちゃん，ショックだったろうな。でも，けんじもさみしくて……。わたしだってほんとうは……。）に省略されている「のぶよの気持ち」を書く。

○手だて

〔あ，もう走れない〕ほどうずんでしまったのか〕の理由を問い，

お母ちゃん，ショックだったろうな。でも，けんじもさみしくて……。わたしだってほんとうは……。〕

の叙述に着目させる。

のぶよのしずんだ気持ちの中には，お母ちゃんへの気持ち，けんじへの気持ち，のぶよ自身への気持ちがあることを確認し，人物設定や出来事などを振り返らせ，それぞれへの思いを書かせるようにする。

○実際

〔お母ちゃん，ショックだったろうな。～〕の叙述に省略されている気持ちを考えさせることは，前ばなし，発端，展開の出来事を振り返り，のぶよのしずんだ気持ちの要因を探らせることができた。前に戻って文章を読み直し書くため，児童に「う～んと考えさせる」思考力を育む活動であった。しかし，3人分の気持ちを書くために時間がかかった。お母ちゃん・けんじへの思いは書くことができたが，のぶよ自身への気持ちまで書くことができた児童は少なかった。

お互いを高め合う言語活動

○言語活動

のぶよの気持ち発表し合い，自分の考えを深めたり広げる話し合い活動。

○手だて

けんじとお母ちゃんへの気持ちについて

けんじの思いは言動として叙述に表されているので、分かりやすい。けんじの言動とお母ちゃんのショックさは対応しているので、けんじとお母ちゃんの思いを平行して発表させる。その時、お母ちゃんへの思いがけんじには伝わっていないことが分かるように「お母ちゃんは〇〇なのにけんじは〇〇」というように、お母ちゃんの思いとけんじの思いに、くい違いがあることを明らかにする。

のぶよ自身への気持ちについて

前ばなしののぶよの設定や発端や展開にあるのぶよの叙述から、けんじとは違い自分自身の思いを押し殺し続けているのぶよのさみしい苦しい思いを出させる。

○実際

「けんじとお母ちゃんへの気持ち」については、「お母ちゃんは〇〇なのにけんじは〇〇」「けんじは〇〇なのにお母ちゃんは〇〇」というように、児童はお母ちゃんとけんじのくい違いに気付いていたので、板書に書き確認した。

「のぶよの気持ち」では、のぶよがけんじとお母ちゃんの仲を心配する気持ち、のぶよもお母ちゃんからけんじの走りを見てほしかったという気持ちが出された。ただ、のぶよ自身もさみしい思いをしていることが出されなかったので、前ばなしの設定に戻り、のぶよのさみしい立場に着目させることで、「のぶよも甘えたかった」「のぶよもさみしかった」という気持ちに気付かせることができた。

〈実践の成果と課題〉

- 単元を貫く言語活動として「登場人物を紹介するリーフレットを書こう」という活動を取り上げた。教師が用意した2年生の物語文「お手紙」のリーフレットを提示することにより、学習のゴールのイメージが明確になり、登場人物の人物像や登場人物の気持ちの変化を読むことや登場人物に対する自分の考えをもつ学習に、目的意識をもって取り組ませることができた。
- 学習した内容をリーフレットにまとめるため、「お互いを高め合う言語活動」で出された友達のより良い考えを自分の考えに進んで付け足したり、自分の考えを修正したりして、考えを深めたり広げたりする姿が見られた。
- 「既習の知識や経験を活用して自分の考えを表現する言語活動」において自分の考えを書く時間を保障する必要がある。ただ、自分の考えをもたせるために時間をかけると、「課題に対する自分の考えをもつ→全体で話し合うことにより考えを高める→振り返りをする」という授業の流れを1単位時間の中で納めることが難しい。言語活動を吟味していかなければならない。

Xo 児童の学習プリント
 「お互いを高め合う言語活動」後のつけ足し
 「お互いを高め合う言語活動」で修正した自分の誤った考え

○お母ちゃん

けんじの短きより走に間に合えなかつたこと。

けんじにべんとうを食べてもらつたこと
 ができなかつたこと。

わりばしのメッセージを分かってもらえなかつたが、ショックだったろうな。

○けんじも、

短きより走に來てもらえなかつたこと。

去年も來てもらえなかつた。今年はやくそどしたのに來てもらえなかつた。

①自分の短きより走を見てほしかった。

が、さみしくて・・・。

○わたしだつてほんとうは

特製のおべんとうがよかつた。

けんじがお母ちゃんにおこつてほしくない

お母ちゃんにけんじの走るところを

見てほしかった。のびよもさみしい。

あまえない。

○お母ちゃん(は)

けんじの短きより走を見ることかできなかつたこと。
 いしょうけんめい作たおべんとうをけんじがお店で売
 っているのと同じじゃないか。となつてくいかすおこてる
 こと。

・わりばしにメッセージを書いたかけんじ
 か食べなかつたため目せられなかつた。

※ショックだったろうな。
 ことが

○けんじも、

お母ちゃんのためにがんばつて一等を取つたのに、お母
 ちゃんか来てくれなかつたこと。(去年も)

とくせいのおべんとう作ってもらえなかつたところ。

(自分しんばとくせいおべんとう)

手にあわなかつた

が、さみしくて・・・。

○わたしだつてほんとうは

けんじが走るところを母ちゃんに見てほしかった。

けんじがお母ちゃんのこととおこつてほしくない。

のびよも本当はお母ちゃんに來てほしかった。さみしい
 あまえない。


完成した児童の「登場人物紹介リーフレット」

リーフレット



登場人物のしょうがい

登場人物の設定



のりほ

- ・去年の運動会は心の中がぐしょぐしょだった。
- ・お母ちゃんのかわりをしている傷ま者。
- ・足がおそい。短ま、走はびりまちがいなし。
- ・運動会はゆううつ。

運動会はゆううつな日だけどがんばっているところが自分とくらべて、すごいな。と思う。のりほのふとんをたたきおこせば、思いやりのあるところが自分とくらべてやさしいと思う。



けんじ

- ・足が速い。去年も1等だった。
- ・お母ちゃんが運動会に来てほしい。さみしがり。



お母ちゃん

- ・弁当の付出屋さん。
- ・朝まだ暗いうちから仕事に出かける。がんばりやさん。
- ・お父ちゃんがなくな。マからんてががんばっている。

のりほのしずんでしまった気持ち

お母ちゃんへの気持ち

わりばしの気持ちを分かってもらえなかったのがショックだった。

・持製のおべんととうとこんなんじいやだ。お話で売っているのと同じ食べてくれたか、たのがショックだった。

けんじへの気持ち

去年も来てもらえなかった。

今年も、やくそくしたけれど、来てもらえなかった。

自分の短ま、9走を見てほしかつたのに来なかった。


のりほ自身の気持ち

けんじがお母ちゃんのことほ、おこしてほしくない。

けんじの走りをお母ちゃんに見てほしかった。

さみしい。 あまえたい。

笑いながら走り続けるのりほの気持ち



けんじとお母ちゃんのおうえんでのりほのさみしい、あまえたい思いが消えた。

・けんじとお母ちゃんが二人でいっしょにおうえんしていてなが直りしたからうれしかった。

前は"なし"では、運動会はゆううつだったけれど、けんじとお母ちゃんにおうえんされてあとは"なし"では、笑いながら走っていて、おうえんはいいなと思いき。